

（財）旭硝子財団 第 14 回「地球環境問題と人類の存続に関するアンケート」調査結果

財団法人旭硝子財団〔理事長：瀬谷博道〕では、世界各国の政府や民間の環境問題に携わる有識者の方々が、環境問題に対する様々な取組についてどのように認識しているかを明らかにするアンケート調査を、平成 4 年以來行ってまいりました（監修は地球環境戦略研究機関理事長であり当財団理事の森島昭夫先生）。今回は国内から 312 名、海外 97 カ国から 397 名の合計 709 名の方々に回答を頂きました。

本資料は本年度の調査結果の内、ポイントとなるものに焦点をあててまとめたものです。調査結果の全貌・詳細につきましては報告書をご参照ください。

1. 環境危機時計 ～人類存続の危機に対する認識～

- ・ 全回答者の平均は、昨年に比べて 3 分戻り 9 時 05 分。
- ・ 日本の危機時刻は昨年とほぼ同じ 9 時 07 分であった。
- ・ 海外合計は、針が 5 分戻り、9 時 04 分となった。

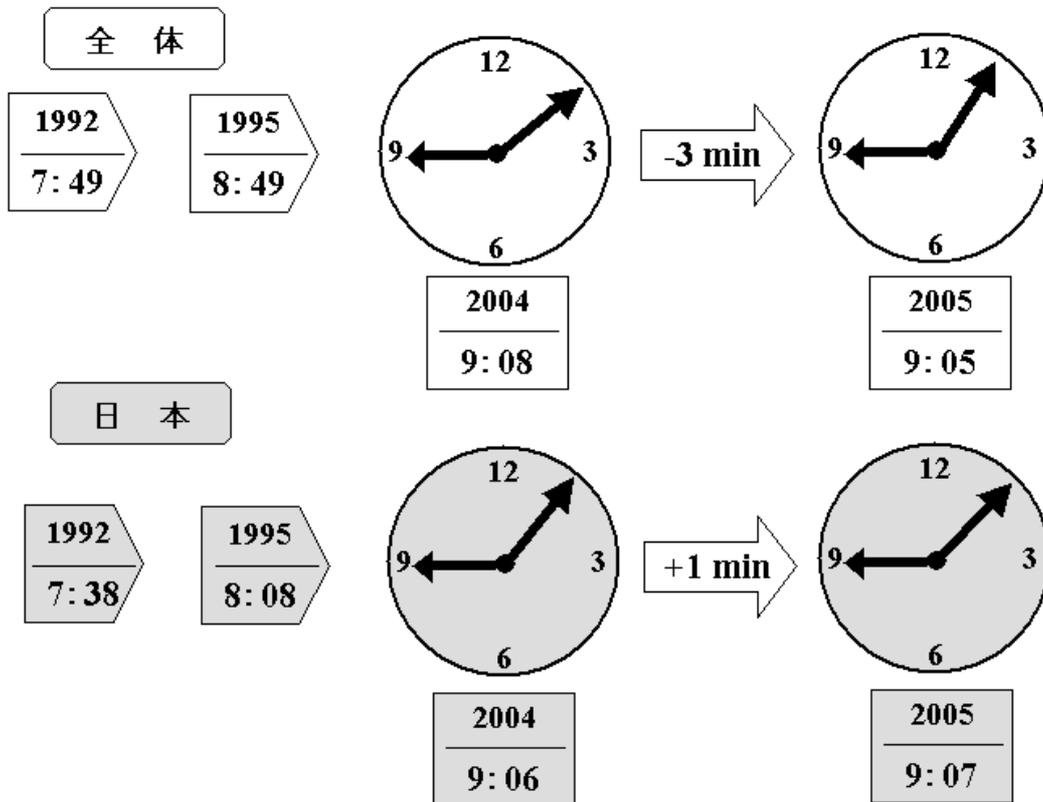


図 1. 環境危機時計の経年変化

本リリースは、環境省記者クラブならびに環境省記者会に配布しています。また、インターネットでも 9 月 6 日からご覧いただけますので、ご参照ください。

2. アジェンダ 2 1 の進捗状況

- 今年も「森林資源保護対策」「生物多様性の保全」「地球温暖化防止対策」「人口・貧困問題」「ライフスタイルの変更」については“進展していない”とみる割合が“進展した”とみる割合を上回り、「人口・貧困問題」と「ライフスタイルの変更」については50%以上が“進展していない”とみている。

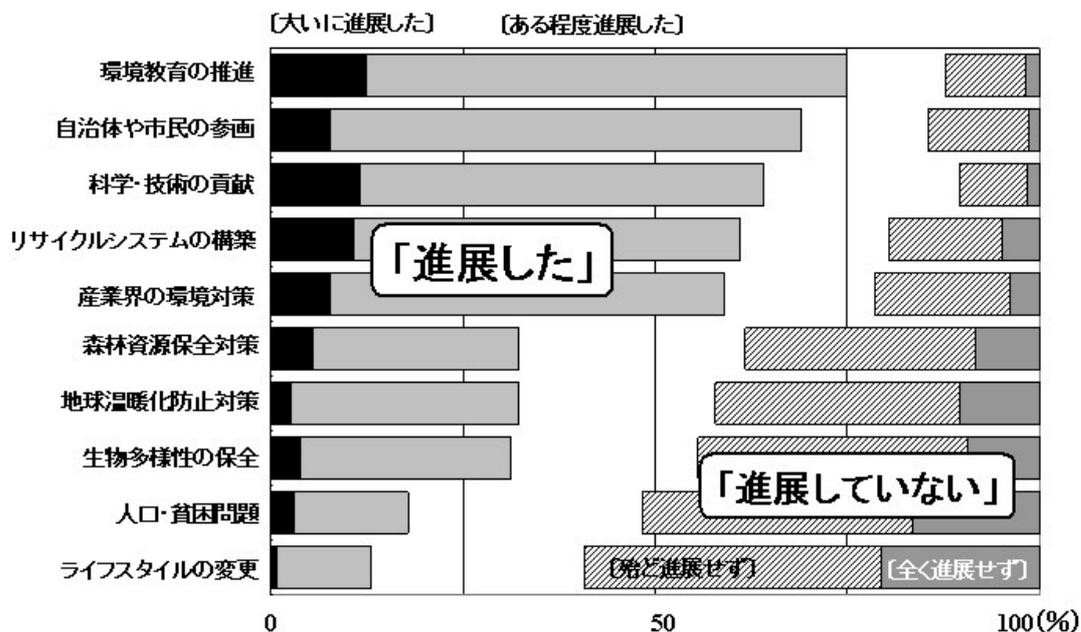


図2. 「アジェンダ 2 1」の進捗状況 (全体)

- 「地球温暖化防止対策」については、回答全体としても40%以上が対策は“進展していない”と評価して、“進展している”の30%をはるかに超えている。特に、京都議定書を批准しなかったアメリカを含む北米からの回答では、“進展していない”が70%、“進展している”が20%となっている。

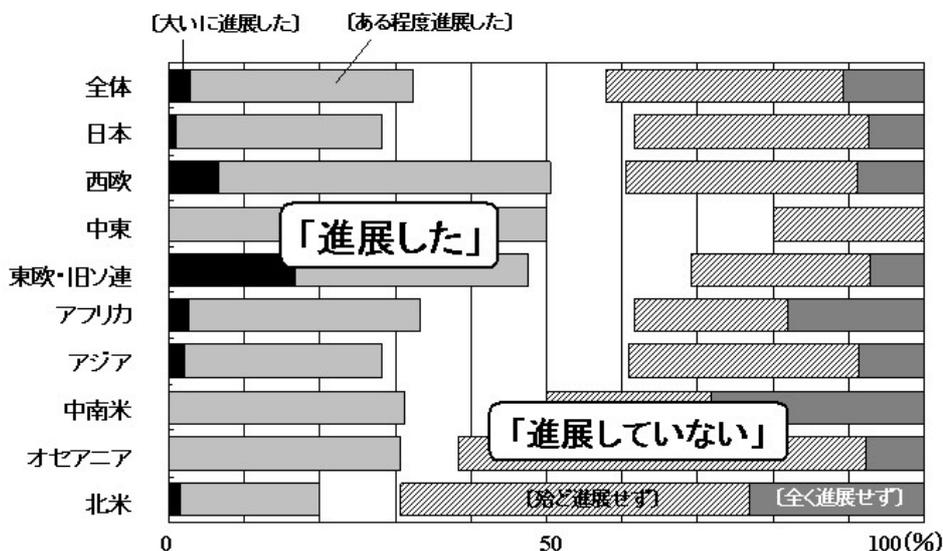


図3. 「地球温暖化防止対策」の進捗評価

3. 取り組むべき地球環境問題

- ・ほとんどの地域が「地球温暖化を含む気候変動・変化」を第1優先課題としてあげた。
- ・「地球温暖化を含む気候変動・変化」を除く優先課題では、先進地域に対する途上地域、男性に対する女性の回答は、それぞれ前者が「エネルギー」「人口問題」をあげたのに対し、後者は「貧困問題」「生態系・生物多様性の保全・再生問題」をあげ対照的であった。

表 世界中が共同して取り組むべきグローバルな環境問題

地域	第1優先課題	割合	第2優先課題	割合	第3優先課題	割合	(%)
全体	地球温暖化	66	エネルギー	31	貧困	26	
海外合計	地球温暖化	53	貧困	32	生態系	30	
日本	地球温暖化	93	エネルギー	40	人口	28	

地域	第1優先課題	割合	第2優先課題	割合	第3優先課題	割合
先進地域	地球温暖化	73	エネルギー	38	人口	26
途上地域	地球温暖化	47	貧困	34	生態系	30

性別	第1優先課題	割合	第2優先課題	割合	第3優先課題	割合
男性	地球温暖化	69	エネルギー	33	人口	26
女性	地球温暖化	48	貧困	26	生態系	26

4. 京都議定書発効と温室効果ガス排出抑制

- ・京都議定書の発効を日本は圧倒的に「評価する」が多いが、海外は「評価する」と「評価しない」の差が12ポイントと小さい。
- ・海外では地域差もあり、オセアニア、東欧・旧ソ連、北米の3地域では「評価しない」が「評価する」を上回った。

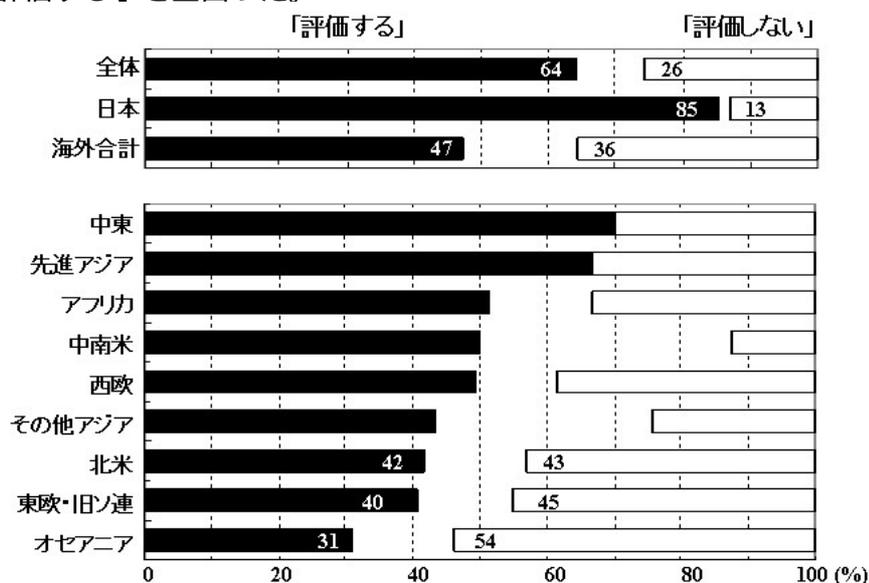


図4. 京都議定書発効について

本件に関するお問い合わせ先

財団法人 旭硝子財団 〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ 2階
 事務局長 鮫島 俊一 TEL: 03-5275-0620 FAX: 03-5275-0871
 e-mail: post@af-info.or.jp URL: http://www.af-info.or.jp